



第15号 2016.4.28発行  
 発行者：株式会社協進印刷  
 編集者：JO編集委員会

# 長く続けたいからこそ、 コンプライアンスは とても大切だと思っています。

YOKOHAMA JAZZ EGGS

小澤基良さん・福山詩織さん



“もっと身近にJAZZがある文化を創る”を目的として、横浜を中心としたカフェバーで「投げ銭制」のジャズライブイベントを企画・実施している。ミュージシャンの団体として日本で初めて「投げ銭ライブ」の著作権問題をクリアしたことで注目されている。 <http://azzeegs.yokohama/>

江森：おふたりが中心となって立ち上げた「YOKOHAMA JAZZ EGGS」ですが、神奈川新聞にとりあげられるなど注目されているようですね。

福山：ジャズをもっと身近に感じてもらうというコンセプトで、居酒屋さんとかレストランとかホテルなどの一角をお借りして、「投げ銭制」でのライブ活動を展開している団体で、現在30名のミュージシャンと10店舗のお店が参加しています。

江森：野毛のバーで偶々お二人のライブに行き会ったのが最初の出会いでしたが、そのときから「団体を作りたい!」と言っていた構想が実現したということですね。新聞記事を読むと「著作権問題をクリア」と書いてありますが、これはどういうことですか。

福山：それが私たちの団体の特徴というか意義なのですが、例えばこういう居酒屋さ

んでBGMを流すときに、有線であれば問題ないのですが、CDをかけたライブで演奏したりすると、その曲の著作権料が発生するんですよ。いまはネット時代でライブの履歴がホームページやブログなどに残ってしまうので、著作権のことを知らずに申請しないでいると、あるときから遡って何年分もJASRAC（日本音楽著作権協会）から請求されてしまったりということがあるのです。多いときには何百万円になるときもあると聞きます。

江森：何百万ですか！それじゃお店つぶれちゃいますね。よく伊勢佐木町あたりの路上で詩織ちゃんたちがライブやっているのを見かけますが、ストリートライブの著作権問題はどつなっているのですか。

福山：ストリートは聴衆が不特定多数で、その分著作権料も高額になりますので、著作権が切れている曲のストックでまわして

います。でも著作権の期限は著作者が亡くなってから50年、戦前戦中の作品だと10年の戦時加算があるので60年、長生きされた方の曲だと百年前の曲でもまだ切れてないものもあるぐらいで（笑）、探すのが本当に大変です。アメリカの民謡や教会音楽などの中から、誰もが一度ぐらいは聴いたことのある有名な曲をピックアップして演奏しています。

江森：でもお店でのライブでは全部教会音楽ってわけにはいきませんか（笑）。

福山：そうですね。そこで私たちが団体になることによって、団体主催のライブ会場を、お店に貸してもらっているという位置付けにして、団体が著作権料を支払うという仕組みにすれば良いのではないかと考えたのです。

江森：なるほどーそれはうまいことを考えましたね。

小澤：しかし基本的にはお店とJASRACが契約するという以外の方法が認められていなかったため、すんなりというわけにはいかず、許可が出るまでに3ヶ月以上かかりました。いろいろ協議した結果、かつて「流し」の人たちを許可していた契約形態を応用して、今回の契約の枠組みを作っていたできました。

福山：最初掛け合ったのは横浜支部の担当者の方だったのですが、次にその上司の方と、その次に横浜支部長と交渉し、その支部長が本部にかけあってくれて、最後は中央執行部というところで、日本で初めてミュージシャンの団体とJASRACとの契約が認められたのです。

小澤：毎回ライブのたびに演奏曲目を記録しておいて、月に1回ぐらいのペースで申請に行っています。これでお店に迷惑をかけることなく、投げ銭制のライブができる

ようになりまして。インターネットを使つての告知も堂々とやっていただけますので、コンプライアンスをしつかりしておくことはお互いにとって大切なことだと感じています。

**江森**：今まではお店側が著作権問題を怖がつて、あまりライブをやらせてもらえなかったということですか。

**福山**：ほとんどのお店は著作権料のことを知らないのです。ですから投げ銭制でお店からは出演料をいただきませんといえは、やらせてくれるお店はたくさんあるのですが、見つかってしまえば後から多額の請求がきて、結局困るのはお店ですから。それでは私たちも心苦しい。

**江森**：JAZZ EGGが主催している限りは著作権問題は常にクリアになっているということですね。

**福山**：そうです。ある外食チェーンからも定期的に呼んでいただいています。コンプライアンスがクリアになっているので安心していただいています。

**小澤**：最近、著作権法の非親告罪化が取りざたされていますが、今後TPPの進展によつては著作権者が何も言わなくてもJA

S R A Cから訴えられる可能性も出てくると言われていますので、今のうちから手を打つておくことは安心感や信頼性につながっていくと思います。

**江森**：素晴らしいですね！まさにCSRそのものです。見つからないようにコンソソソ隠れたり、決まりだからと渋々やったりするのではなく、自ら進んで責任を果たすことで新しいステージが見えてくる。これからの時代に音楽や美術などのコンテンツを仕事にしていくにあたっての、あるべき姿を見せていただいた感じがします。

**小澤**：お店への安心感とともに、堂々と告知ができるようになりましたので、JAZZ EGGのホームページ上でライブスケジュールを公開しています。普段あまりジャズを聴かない人も、居酒屋で気軽に聴いてもらうことで興味をもってもらい、ゆくゆくはライブハウスに足を運んだり、CDを買っていただいたりということになったらいいなと思つています。

**江森**：確かにいきなりライブハウスというのは敷居が高いですからね。そういう意味では活動の幅がすごく広がったということですね。でも、演奏する側にもいいことですよね。とりあえずJAZZ EGGのメンバーになっておけば面倒なことにならずに済みますからね。

**小澤**：そうだと思うんですけど、実際は人によりですね。今の30人のメンバー含め理解してくれる人はすごく評価してくれるんですけど、中には「なんでそんなめんどくさいことするの？」「今までこれでやってきたんだからいいじゃん」というようなことを言う人もいます。

**江森**：ハハハ、どこかの業界でも聞いたよ



野毛の「ミラクル商会」にて深夜の取材

うな…(汗)。どこにでもいるんだね、そういう人つて。

一同(笑)

**小澤**：すごく大切なことですけどね。

**福山**：一過性のことではなく、長く続けていこうと思つたら絶対にクリアにしておかなければならないことですよ。

**江森**：本当にそう思いますね。今後はどのような活動をされていくのですか。

**小澤**：2、3ヶ月やってみて事務的な手続きの流れが掴めてくれば、僕たちも慣れてくると思つので、そうなつたらフリーペーパーの発行と個人会員の募集を始めます。

**江森**：個人会員というのはどういうイメージですか。

**福山**：わかりやすくいえば応援団なんですよ。うけど、ある程度の出資をしていただいて活動を支えていただく方々というふうなことをしています。個人会員の特典としては、年に1回のスペシャルライブへのご招待と、

ライブ会場を提供してくださる加盟店様から割引等の特典を出していただくかとも考えています。

**江森**：それは会員さんもうれしいし、お店もうれしいし、まさに三方良しの地域活性の仕組みですね。

**福山**：横浜はライブハウスの密集度が世界一と言われている街なんです。でもそのほとんどはかつてジャズが流行したときにできたお店なので、今やお客様はもちろん、お店のオーナーも、出演している演奏者もかなりの高齢化が進んでいます。いつ行っても同じメンバー、同じミュージシャン。それがそのまま歳をとってしまったという感じで、とても活性化しているとは言い難い状況です。私はずっとミュージシャンを続けていきたいと思つていますが、私たちが60代ぐらいになって素敵な演奏ができるようになったとしても、その頃には聴いてくださる人がいなくなつていた…というのは悲しすぎます(笑)。そういう意味でも20代、30代の人にも、もっとジャズを聴いてもらつて、記念日などにはジャズを聴きに行こうかと思つてもらえるようになったらいいなと思つています。

**小澤**：かつて日本には本当のジャズファンの人たちがいて、結局今もライブハウスはその人たちが支えているのです。しかし時代とともに音楽の選択肢が増えたということもあると思いますが、特にバブルの前後でジャズを聴く文化が変わつてしまいい「イベント化」してしまつたと思います。僕たちはジャズをイベントではなく文化にしたい。日常の暮らしの中に普通にあるジャズの文化を創つていきたいと思つています。

# 高齢者運転免許自主返納サポート制度

## ～高齢者の交通事故を未然に防ぐために地域が協力するサポート制度～

近年高齢者の運転操作ミスによる交通事故が増えています。高齢者は加齢に伴う身体機能や認知機能の低下により、運転操作ミスを起こしやすいことから、アクセルとブレーキの踏み間違いのような事故が多発していますが、運転免許証の取得は国民に認められた大切な権利でもあります。個人の権利と交通安全とをどのように両立させるかが、深刻な社会課題となっています。

自らの運転技術に不安を感じている高齢者も増えている一方で、長年運転をしてき

たという自負や、身分証明書としての運転免許証が失われることに、少なからず抵抗を感じている方もたくさんいるようです。

そこで、運転を継続する意思がなく、運転免許証を返納したい方のために、自主的に運転免許取り消しの申請ができるように、平成10年4月1日に「運転免許証の自主返納制度」がはじまり、各都道府県警察本部内に「高齢者運転免許自主返納サポート協議会」が設置されています。

この法改正では、運転免許を返納した人

が返納から5年以内に申請すれば「運転経歴証明書」の交付を受けることができるようになります。この運転経歴証明書は銀行等での本人確認時にも公的な証明書として使用することができるため、身分証明書がなくなってしまうという心配がありません。

また、サポート協議会では、地元企業や団体に加盟をよびかけ、加盟企業が運転免許を自主返納した高齢者に対して、運転経歴証明書の提示により料金の割引などの各

種の特典を提供する事業も展開し、自主返納を後押ししています。

安全で安心な地域づくりと、高齢者の幸せな暮らしのために、企業にも貢献できることがあります。

お問い合わせは、お問い合わせは、地元の警察本部またはお近くの警察署まで。



# 国会議事堂に行ってきました！

## ～産業視察研修会報告～

文・写真 真島愛子

3月9日、横浜商工会議所北部支部主催の産業視察研修会に行ってきました。前日までの春の陽気が一転寒々とした曇り空。寒さを我慢しながら定刻8時ジャストに、天理ビルから出発です。議員会館では衆議院議員の先生直々に議員会館と国会議事堂を案内してくださいということ

でぞろぞろとエレベーターに乗り込み、胸には「横浜商工会議所北部支部」と書かれたネームプレートを付け、すっかりおのぼりさんです。議事堂裏にある議員会館からは、普段は見るできない後ろ側からの国会議事堂を一望できました。会館

や議事堂では忙しい人の妨げにならないようにと、通路では2列以上になつてはいけないというルールがあることにクスクスとしてしまいました。

明治に建てられた日本銀行、皇太子殿下のご成婚記念で再整備された和田倉噴水公園を回り、業界ではい

ち早く1992年から生ごみを肥料化するなど環境に取り組んでいるパレスホテルの歴史も伺いました。今回この視察で改めて感じたことがあります。それは、建築物や景観の大切さです。入社がきっかけで、お客様である日本建築家協会主催の街散歩にたびたび参加しています。

建築家の先生方と一緒に都内の建築物を観て歩くという少々マニアックな企画ですが、参加するたびに新たな発見がある楽しいイベントです。

築地本願寺、聖路加病院の新館と旧館ふたつの礼拝堂を見学した時のこと、近代的な新館は確かに整然と



継承がされていなくて、昔のような建築ができないというのが現状です」との答え。効率化って何なんだろう？と考えさせられました。

今回訪れた国会議事堂と日銀本館は味も温かみもあるすてきな建物でした。横浜にも明治、大正時代の建築がたくさん残っており、ひとつ一つは素晴らしい建築物です。でも周辺のビルやマンションの屋上に大きな看板があるのを見ると、その景観のちぐはぐさに少し悲しくなってしまう。

逃げてきれいなのですが、戦火を逃れた建造物である旧館のような存在に欠ける気がしました。参加者からの「なぜ新館も旧館のような造りにしなかったのか」との質問に、「効率ばかりを考え、残すべきものを考えなかった。その結果、技術の

利便性や流行にとらわれすぎることなく、その建物がそこにある意味や周辺にあるものとのバランスを考え、街づくりができないものかなあと思います。





## 北海道

大口の魅力を紹介する大口自慢。今回ご紹介するのは、とつてもご近所の精肉店北海道屋さんです。

北海道さんの始まりは、なんと100年以上も前、労働者にも肉を！という思いから、安く手に入るモツを販売したのが始まりで、2000年から現在の場所で営業しています。トラックでの配達には横浜周辺から町田方面にまで、クール便では北は北海道から南は熊本まで全国のお客様に届けています。

5代目となる西崎義人さんは、横浜市場で肉の規格から携わり、産地や酪農家を厳選して仕入れ、特に豚肉は神奈川県産にこだわり、自分の目で確かめるために畜産家の方々のところまで足を運んで、保育園給食などに「安心安全」をお届けしています。

店頭のショーケースに並んだお肉は、全て横浜市場から仕入れてすぐに並べられた鮮度のよいものばかり。ご主人が「横浜で一番フレッシュな肉が手に入るお店と自信をもって言えます」と、最高の笑顔でお話ししてくれました。

北海道さんのモツで作ったモツ煮は臭みがなく、煮ても縮まず、トロットロな触感がなんとも言えないと、ママたちの間でも評判です。また、冷凍で販売されている骨付きフランクをはじめとする小分けの食材は、奥様の意見を取り入れて、手間をかけずに食卓に出せるあと一品のお助け料理に！と、セレクトされているのだそうです。

これから暖かくなったら、ピリッと辛めのもつ炒めや、茹でてポン酢で食べるのおススメと教えて頂きました。横浜フレッシュなお肉で、フレッシュな新生活のお祝いなどしてみたいかがですか？

# 大口自慢

有限会社 北海道商店

横浜市神奈川区大口仲町61の1

電話：045(423)8629

営業時間：午前8時～午後5時

定休日：日曜、祝祭日

月1回水曜日(店頭に掲示)

## Kyoshin TODAY

### よこはまグッドバランス賞受賞

この度よこはまグッドバランス賞を受賞しました。一昨年一人のパート社員が介護に直面するということが多きっかけになり、就業規則等の見直しを実施。労働環境を整備したことで、今回の受賞となりました。

今年には新卒社員が仲間入りしたこともあり、ライフステージに合わせた働き方への対応など、もっと女性が活躍しやすい環境づくりを継続していきたいと思います。



### 台湾インターンシップ受け入れ



今年も、1月27日から2月17日の3週間、台湾国際企業人材育成センター(「TTC」)から研修生を受け入れました。今回のインターン生は、呉翰奇(ごかんき)くん。穏やかな雰囲気を持ち、とつてもユニークな26歳、「今どき」の青年です。台湾インターン生で男子が

来たのは5年ぶり。呉くんは日本語を書くのが少し苦手。昨年から台湾研修生の課題にしている「JO台湾版」の作成は少し難しいかなとも思いましたが、それも勉強、あえて難題に挑戦してもらいました。トップ記事のインタビューは、以前JOの対談にも登場していたた株式会社ディストル・ミュージックエンターテインメントの生明尚記さん。台湾では有名な中原大学のダンスサークルに所属していた呉くん、音楽談義に花が咲きました。生明社長と年齢が同じということを知った呉くん、「生明さんは社長さん、私は研修生…」と悄然としていました(笑)。

もうひとつの課題「ありがとっの日」の企画では、台湾研

修生受入れ企業とTTCの学生の皆さんにオリジナルのブックカバーと葉のセットをプレゼントしました。デザインテーマは「横浜」で、横浜で過ごした日々を忘れないようにとの想いが込められています。

まだ具体的な将来像は描けていないのですが向上心が強い呉くん、きつと台湾だけにとどまらず、たくさんの方々の場所を活躍してくれることと期待しています。



### 2016年度入社式

4月1日、2016年度協進印刷入社式を横浜一之宮神社にて執り行いました。本年度は2名の女性社員が入社。真新しいスーツを身に纏い、慣れない神前で、たどたどしくも懸命に立ち振る舞おうとする姿がとて輝いて見えました。式後は記念撮影のため写真スタジオへ。あれこれカメラマンからポーズを要求され、ここでもタジタジの2人。それでもそれなりにポーズをとつて、なかなかのモデル振りでした。

帰社後、2人に感想を聞くと「今日はとても緊張しましたが、社会人としての自覚がはつきりと芽生えました。頑張ります！」と決意を新たにしていました。

営業部・本橋愛加、制作部・糸谷泉美、皆さんとお話できる日を楽しみにしております！



JO(ジエイ・オー)2016年4月号(第15号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町108番地

TEL: 045(431)6611

FAX: 050(3730)6273

URL: <http://www.kyoshin-print.co.jp>

